

## ルワンダ通信②(トビタテ生の北村さんの活動レポート)

アフリカ・ルワンダに留学中の本学学生から、現地だよりが届きました。

アフリカ専攻3年の北村さんは、「トビタテ留学」生として、ルワンダの大学に留学しながら、現地のNGOや企業でインターンをし、ボランティア活動をしています。ルワンダでの様子を伝えるたより第2弾が届きましたので、ご紹介します。

\*\*\*

こんにちは。日本は今、桜がきれいな頃でしょうか？私が留学しているルワンダには雨季と乾季はありますが、日本のような四季はありません。ルワンダの気候は一年中穏やかで過ごしやすいのですが、やはり日本人として、季節を感じられるものが恋しくなります。

私は週に1回、小学校に行ってボランティアをしています。普段は絵本を使っての英語の授業をお手伝いしているのですが、最近2週続けて日本文化の紹介を行いました。



まず1週目は「浴衣」を紹介しました。浴衣を着て現れた私を見て、授業を始める前から子どもたちはみんな興味津々でした。最初に写真を見せながら浴衣についての説明を行い、そのあとに実際に何人かの子に浴衣の着付けをしてあげました。女の子用の浴衣しかなかったため、男の子には風呂敷を使って「忍者」に変身してもらいました。子どもたちが浴衣を着ているのを見ていた先生が「私も着てみたい！」と名乗り出て、先生にも日本文化を体験していただきました。私がボランティアをしてい



る小学校には、ルワンダ人の他にウガンダ人の先生もいらっしゃいます。その先生によると、ウガンダにも浴衣に似た民族衣装があり、唯一の違いは結び目が前に来るように帯を結ぶことだそうです。まさかアフリカにも浴衣のようなものがあるとは思わなかったのですが、とても驚き、興味深いなと感じました。



2週目は日本人が4人集まったので、日本の音楽を紹介しました。ちょうどこの時期ということもあり、写真を使って「桜」の説明を行い、それから「さくらさくら」を合唱しました。歌の最後に扇子を使って桜吹雪を散らせると、子どもたちはとても喜んでくれました。2曲目は、リコーダーとハンドベルを用いて「とんび」を演奏しました。その小学校では鍵盤ハーモニカは習いますが、日本のようにリコーダーは教わりません。小学校4~6年生のクラスだったので、「みんなと同年の日本の子どもたちはリコーダーを習うんだよ」と教えてあげると、「吹き方教えて！」とみんなとても興味を持っていました。

文化紹介は、子どもたちだけではなく学校の先生たちにも「日本の文化は素晴らしいね」と言っていただき、大好評で終えることができました。私の通う大学に、ルワンダの伝統的な踊りを習うダンスクラブが新しく出来るそうなので、今度は私がルワンダの文化を習おうと思います。文化を通じてお互いの国のことを知るの  
は素敵なことだなと思います。

(国際社会学部アフリカ地域専攻 3年 北村美月)

\* \* \*



先日、北村さんの現地での活動の文章が、「[ルワンダの平和と和解のために](#)」というサイトで紹介されました。こちらもあわせてご覧ください。(外部のサイトにリンクしています)

日時: 2016年04月13日